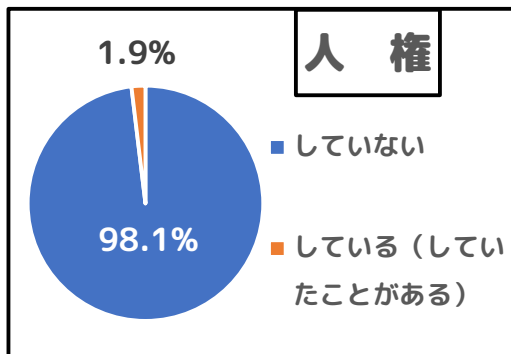


(1) 人権尊重について

チェック項目については全国保育士会が作成した『保育所・認定こども園における人権擁護のためのセルフチェックリスト～「子どもを尊重する保育」のために～』を使用しました。

結果は下の円グラフの通りです。



全設問に対して 98.1%が望ましい対応をしていることが分かりました。(昨年度より1ポイント減)1.9%の望ましくない対応は主に下記の2項目に見られました。

集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「○○しないなら○○できないからね」と言葉をかける。

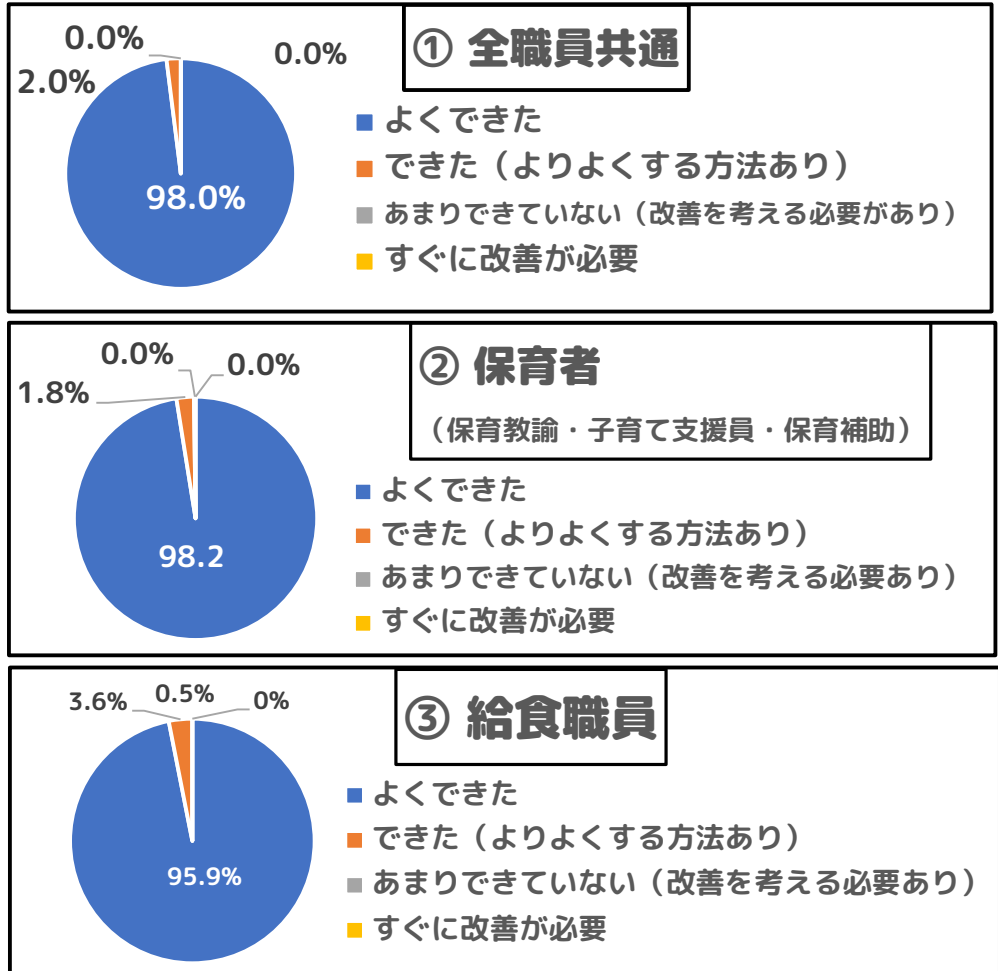
見通しがもてるまでは、「もうすぐ○○をするよ。お片づけしようね。」といった次の活動とそのためにすべきことを知らせることで、子どもたちが切り替える気持ちを育てること。徐々に「もうすぐ○○の時間だね。」などと発達に応じた声掛けをして、子どもたちが自分自身で考え、行動する力を育むことができるようにすることが人権の感覚として必要であることを職員会議で再確認しました。引き続き、肯定的な言葉がけを心掛け、子どものやる気を育てていきます。

少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する。

「非常に」のとらえ方にもよりますが、完食できたという満足感を得られるようにとの思いから減らしていたというケースが認められ、職員会議で話題となったことがございます。無理に食べさせることも人権への配慮に欠ける行為である一方、(同じ量のものを食べるという) 機会の平等への配慮も必要であることを再確認いたしました。

(2) 園の運営 や 教育・保育活動について

『平成 30 年度施行 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己チェックリスト 100 CD-ROM ブック (PriPri ブックス)2016 世界文化社』を基に、園独自の項目も設定し、自己評価を行いました。



① 全職員共通、② 保育者用、③ 給食職員用といずれもよくできたとの回答が 95%以上と望ましい対応と適切な保育の提供を行っていました。その中でもよくできたの割合が 95% (給食は 4 人のため 80%) を下回ったものにつきまして、それぞれの改善策を掲載いたします。

① 職員共通

令和4年度は95%を下回った項目がございませんでした。そこで、昨年度からの改善点である研修について記載します。

研修について

今年度は個々の課題に応じて実地でなくとも研修が受けられるよう、動画研修サービスを活用して個々に選択した動画を見られるようにしました。「空いた時間にできて、気になったところをもう一度観ることもできるので良い」「リモートにて他園の取り組みも知ることができ実りある研修だった」などという意見が寄せられ、日々の保育への意欲の向上も図れてるよう感じています。次年度も継続利用して質の向上に努めます。

② 保育者（保育教諭・子育て支援員・保育補助）

園の保育目標、教育・保育の全体的な計画、教育課程、学校保健計画、学校安全計画、食育計画、子育ての支援計画に基づき、年間指導計画や月案などの保育計画を作成し、週やその日の指導計画を立てている。

特に多くの職員で保育にあたるクラスにおいて計画の相談や、情報の共有を次年度はより綿密に行いたいという意見がございました。1日の中でも引継ぎが必要となりますので、その日の計画だけでなく長期の見通しも共有できるように意識づけを図ります。

園児の発達過程のおおむね8つの区分を理解し、園児一人一人の発達に合わせ、指導や援助をしていくことの重要性を理解している。

声をかけすぎたり、支援をしすぎたり、無理に集団遊びに参加させようとしてしまったりしたという反省があげられました。集団の中でも一人一人の発達に合わせた支援について、研修や個別の計画を作成するなどして園全体でも支援の方向性を共有していけるように努力いたします。

家庭や地域において異年齢の子どもと関わる機会が減少していることを踏まえ、満3歳未満の園児を含む異年齢の園児による活動を、園児の発達の状況にも配慮しつつ、適切に組み合わせ設定するなどの工夫をしている。

コロナウイルスの感染拡大の影響で、子ども達同士の異年齢での関わりをもつ機会をとることが難しかったという意見が多くありました。その中でもお店屋さんごっこでは年長児が年少児のお買い物に付き添うなど状況に応じてかわりが持てるように工夫をしました。また、できるだけ他学年の姿を保育者が話して知らせたりするなどして、憧れや優しさの気持ちにつながるようにも努めてまいりました。

保育参加において、教育・保育活動の理解を促すとともに、子どもを深く理解する視点を伝えたり、その実践を示したりしている。

年少児以上につきましては**6月に学年ごとの親子遠足を実施**いたしました。全園児を対象に**8月には面談も実施し、保護者の皆様との情報が共有できるようにいたしました**。他にもはいチーズの通常保育の撮影日に成長した姿を見せられるような保育を考えたり、プール介助やローテーション見学など子ども達の様子が見られる場を提供したりと子どもたちの様子が保護者の皆様に伝わるように工夫してまいりました。一方、発表会や運動会では普段と異なる姿をご覧いただくことになってしまうことを職員間で課題としてあげられていました。

そこで、次年度も引き続き**年少児以上は5月頃に親子遠足を実施すること**といたしました。また、**保育参加（参加後の面談含む）も実施する予定でいます**。さらに、新たな取り組みといたしまして、3歳未満児も親子自己紹介の機会を設ける予定でいます。

※ 登園自粛期間となった場合は延期・中止となりますことをご了承願います。

③ 給食職員

給食会議を定期的に行い、園児の栄養状態や喫食状況を適正に把握し、記録を作成し、食事の品質の改善に生かしている。授乳や離乳食等の時期にあたる園児に対しては家庭と連携し、発達に応じた献立を作成している。

（職員の体調不良等で）発注担当者が検収をせざるを得ない日がありました。検収をきちんとしてから受け取るよう全員で確認し、納品業者にも伝えました。調理指示書に発注チェック欄を復活させ、4人全員で内容を確認しました。次年度は新規栄養士も採用しており、配置の見直しを図ってより安全な給食の提供ができるように努めます。

80%を下回ったのは1項目でしたので、昨年度から見直しを図った点について記載します。

◆アレルギーフリー食材の導入について

マヨネーズやハム、ベーコンについて卵不使用のものを使用したことで給食室内にも余裕が生まれ、子どもたちにとっても安心な給食の提供を行うことができました。

◆給食の写真の配信

保護者の皆様が園に入れない状況が続く中、写真を一緒に見て今日の給食について話すきっかけになったのではないかと思います。「こういう方法なら好んで食べてくれるんだ」という保護者の皆様の発見にもつながっていただければうれしいです。

園における子どもたちの様子が見えないという不安、集団生活を味わわせたいという思いと感染リスクへの不安を天秤にかける日々…。コロナ禍2年目となる令和3年度は保護者の皆様におかれましても心配事の絶えない1年だったことと思います。出かけることがはばかれる中、感染症対策を行いながら自分の気持ちだけでなくお子さんの気持ちも明るく保ち、園に通わせてくださったことに頭が下がります。保護者会の皆様をはじめ、保護者の皆様のご理解、ご協力のおかげで大過なく園を運営することができました。ありがとうございました。

当園でも制限が伴う中でも、集団の中で子どもたちの健全な心身の発達に寄与できるよう善処してまいりました。仕事だから当然と言われれば当然なのかもしれませんが、このような状況下で1年間保護者の皆様に代わってお子さんとお過ごした職員の心持ちを抜粋して記載いたします。迷いの中でも前向きに保育に向かう姿が少しでも伝わりますと幸いです。

- ・ コロナ禍であっても子ども達が園に来て「楽しい」と思ってもらえるような保育を心がけた。環境を工夫して感染症対策を行いながら、友達と関わりをもって楽しく過ごせるように保育を行なった。
- ・ 子どもたちも我慢している状況です。感染対策に一層の気を配り、楽しい思い出が沢山できるようにしています。
- ・ まずは園に関わる全ての人がコロナにかからないようにするという考えで仕事に取り組んできました。命を預かるという責任のある仕事なので、プライベートでも自粛してきました。登園自粛期間は直接会えない子達がいて寂しいですが、お家でこども園があるので元気な顔が見られてとても嬉しいです。
- ・ うがい手洗い、手指消毒、ワクチン接種を受けたり、外出を控えたり、体調管理を万全にしてまずは自己管理をしていった。自分がかからない、家族もかからないように配慮していくことが大切と思いながら仕事をした。

- ・感染対策に関しては自分はもちろんですが家族にも気をつけてもらう事を伝えて感染しない様心がけました。
- ・手洗い、手指消毒、換気等自分達でできることは、最低限行うよう徹底した。また、子ども達の体調にも配慮しこまめに様子を見ながら体調の変化にも十分に注意するように心掛けた。
- ・自分も周りの人にも感染してほしくないなので、園でも感染予防を十分に行って、家庭でも必要以上の外出を控えて感染しないように気を付けながら勤務しました。
- ・制限がある中でも、子ども達ができる限り自分の気持ちを表に出すことができるような活動を考えたり、環境の変化においての子ども達の気持ちの変化に気づいていけるよう心掛けたりしていけるよう努めました。
- ・コロナ禍ということでなかなか外出が出来ない子ども達と、五回で折れる簡単な折り紙の折り方を提示して、家でも折れるようなものを子ども達と楽しんだ。
- ・コロナ禍で保護者の方もいろいろ不安やストレスがある中で少しでもその気持ちが和らぐような環境で過ごせるように心がけていた。
- ・給食を食べてコロナで疲れた心を元気にしたいと思いながら作りました。
- ・自分の健康管理をしっかり行い感染予防をしながら、支援センターに遊びに来ている親子が安心できる環境を作っていました。
- ・今年もコロナ禍ということで例年とは違う活動や行事もありましたが、こんな時だからこそ、子ども達が楽しめるような保育を考えたり、自分も楽しんでいながら一緒に過ごしていくことを大切にして保育をしていきました。4月当初は子ども達と同様にとても不安な日々を過ごしていました。しかし、子どもの成長は本当にあっという間で、毎日泣いていた子が笑顔で登園できるようになったり、給食を完食できるようになったり、みんなとの活動の場に楽しんで参加できるようになったりと、嬉しいことが重なる度に、「ああ、自分ももっと頑張ろう…！」という気持ちになっていたのも、本当に子ども達に救われた日々でした。